

再評価実施事業調査書

番 号	1	事 業 名	海岸事業		路線又は箇所名等		一宮海岸（一宮町）			
事 業 所 管 課			河川整備課		事 業 主 体		千葉県			
事業化年度	昭和 58 年	用地着手年度	—		工事着手年度 工事終了(認可)年度	昭和 58 年 平成 39 年	再 評 価 の 理 由	再々評価		
費用便益比 B/C	3.24 (2.56)	総費用	213 億円 (37 億円)	総便益	691 億円 (92 億円)	基準年	平成 30 年度	供用 開始 年度	平成 16 年度	

※上段：全体事業 下段（ ）：残事業

【事業概要】

（目 的）波浪等による海岸の侵食及び海岸保全施設の被災を防止し、背後地の人命及び財産を防護するため海岸保全施設の整備を行う。

（実施内容）施工延長 4,405m（ヘッドランド 4,255m（10 基）、離岸堤 150m（1 基））

【事業の進捗状況】

	全体計画（億円）	投資事業費（億円）	進捗率（%）
全 体	115	80.6	70.1
用 地	—	—	—
工 事	115	80.6	70.1

（実施済み内容）施工延長 2,846m（ヘッドランド 2,696m、離岸堤 150m（完成））

【社会経済情勢等】

① 海岸状況

一宮海岸は、九十九里浜南端に位置し、背後には松林を有し昭和 40 年代半ばまでは 100m 前後の広い砂浜を形成していた。しかし、昭和 40 年代後半から砂浜の侵食が進行しており、平成 10 年代中頃までの約 30 年間で汀線が約 20～70m まで後退し、砂浜幅のない区間も生じている。

このため、昭和 58 年度から砂浜の回復を図ることを目的としてヘッドランドと離岸堤の工事を実施している。

② 海岸事業に対する地域意識の高まり

地域の意向や特性に応じたきめこまやかな海岸づくりを行うために、地域住民や関係団体などの意見を取り入れる場として「一宮の魅力ある海岸づくり会議」を平成 22 年 6 月から開催してきた。本会議では、行政だけでなく、地域住民、海岸利用者、漁業関係者、学識経験者が参加し、さまざまな観点から、より効果的な侵食対策を実現するための検討を進めてきた。なお、本会議は平成 27 年度までに 11 回開催し、平成 28 年度からは、侵食対策の事業区間以外でも侵食が進行したことから、九十九里浜地域全体での侵食対策について検討する場として設置した「九十九里浜侵食対策検討会議」に引き継がれている。

海岸事業に対する地域の意識がますます高まっており、侵食対策は地域からも必要とされている状況である。

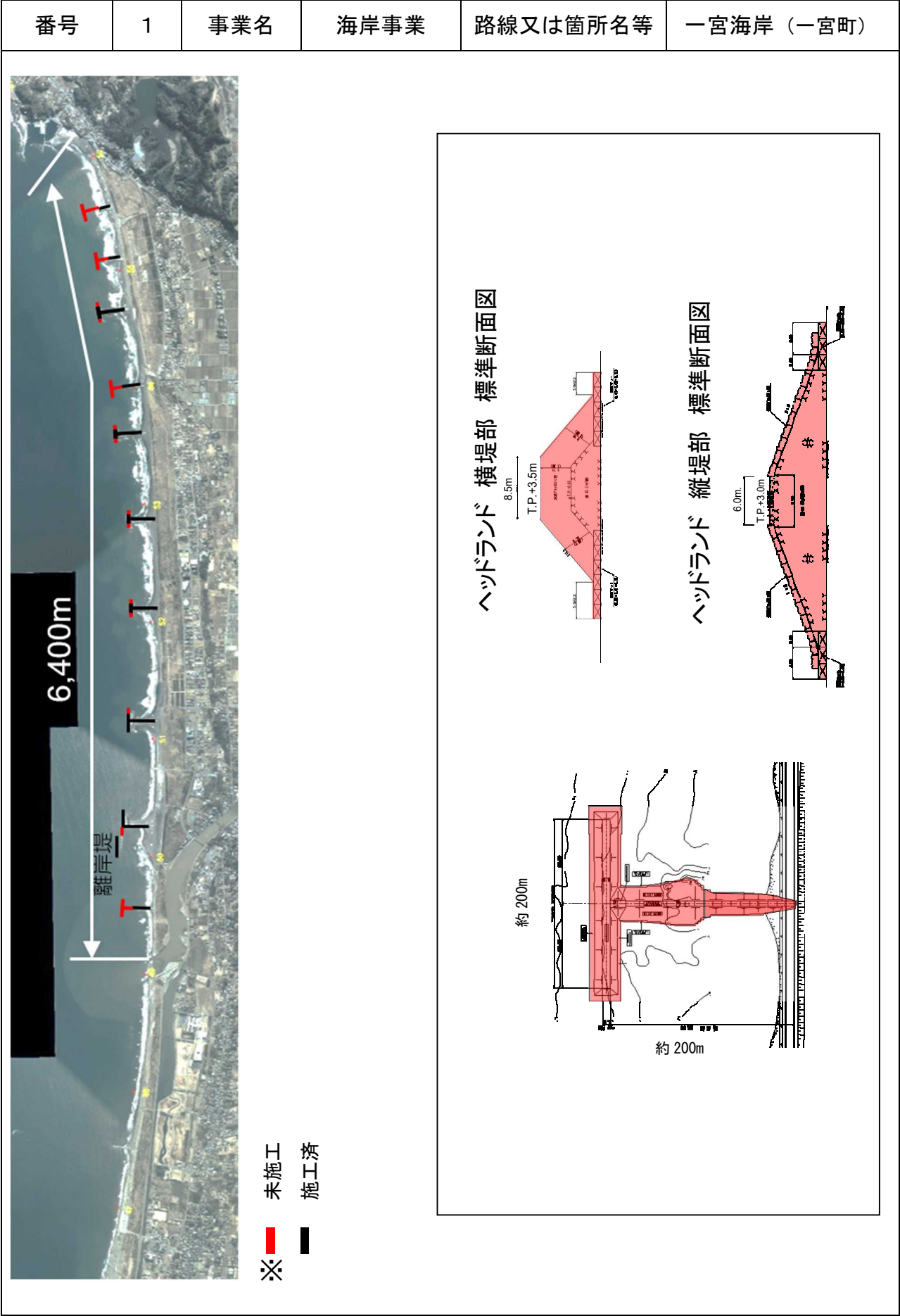
③ 海岸利用増加の期待

これまでも、海水浴をはじめサーフィンや観光地引網などが行われており、地域の祭事や日常的な散策も合わせて、地域利用の場、レクリエーションの場として多くの利用がなされてきた。圏央道の開通など交通網の整備により他県からもアクセスが容易になり、さらに 2018 年には、一宮町の釣ヶ崎海岸が 2020 年東京オリンピックのサーフィン会場に決定したことで、海岸利用者は増加傾向にある。今後も、海岸利用者の増加が期待される。

【対応方針（案）】

砂浜に対する地域のニーズと意識が高まっている状況であり、全体事業の費用便益（B/C）は、3.24 となり、事業の投資効果も見込まれることから、事業を「継続」し、さらなる砂浜の維持・回復を図ることとする。

事業概要図



再々評価事業に関する調書

番 号	1	事 業 名	海岸事業	路線又は箇所名等	一宮海岸（一宮町）
事 業 化 年 度	昭和 58 年度	用地着手年度	—	工事着手年度	昭和 58 年度

【再々評価(前回)の概要】

再評価実施年度 (基準年)	平成 25 年度	供用開始年度	平成 16 年度	対応方針	継続
B / C	3.79 (—)	総費用	173 億円 (—)	総便益	657 億円 (—)

※上段：全体事業 下段（ ）：残事業

再評価時の委員会の意見及び当時の状況

継続が妥当

委員会からの意見は特になし

再評価時の進捗状況及び再評価時想定 of 5 年後の進捗状況

	計 画	進捗状況	5 年後の想定進捗状況
全体事業費	115 億円	75.5 億円 (65.6%)	115 億円
用地取得面積	—	—	—
供用延長 (施工延長)	6.4 km (4,405m)	6.4 km (2,727m)	6.4 km (4,405m)

【再々評価の概要】

再評価実施年度 (基準年)	平成 30 年度	供用開始年度	平成 16 年度	対応方針	継続
B / C	3.24 (2.56)	総費用	213 億円 (37 億円)	総便益	691 億円 (92 億円)

※上段：全体事業 下段（ ）：残事業

現在の進捗状況

	計 画	進捗状況
全体事業費	115 億円	80.6 億円 (70.1%)
用地取得面積	—	—
供用延長 (施工延長)	6.4 km (4,405m)	6.4 km (2,846m)

再評価後の経過及び処理状況

○侵食傾向にあった当時から海岸全体に渡って事業が行われていた。

○施工延長は 2,727m（前回再々評価時）から 2,846m（今回再々評価時）に増加している。

○B/C は 3.79（前回再々評価時）から 3.24（今回再々評価時）に減少した。地形データの更新、家屋の分布の変化により想定浸水区域内の家屋数が減少し、浸水防護便益が減少したためである。

○ヘッドランドの設置により、侵食が低減している。

○波浪等による海岸の侵食及び海岸保全施設の被災を防止し、背後地の人命及び財産を防護するためには、砂浜の維持・回復が必要であり、利用や環境のニーズを踏まえながら事業を継続する。